



## 「祭のあとの淋しさが・・・♪」

タイトルの歌詞の歌がわかる人は年齢 50 歳以上だと思いますが。とにかく、またひとつ 3 年生にとっては大きなイベントが終了しました。各クラスの企画責任者の人や学芸委員長をはじめとする生徒会スタッフの苦勞に敬意を評します。何事もそうですが、ひとつの仕事をやりきるのには大変なことです。クラスや学校全体全ての人々が乗り気であるとは限りません。それを盛り上げて、その気にさせることが一番大変なのだと思います。でも結果的に皆が参加してよかったと思える形になったとすれば、大成功といえます。閉会式で教頭先生が「文化祭はお客として来るよりも、やるほうが面白いものだ」と話されました。本当にそうだと思います。花飾りを 1 つ作るだけの作業、ポスターを貼るだけの作業でも、そこには「**参加した記憶**」が残ります。この記憶こそ十数年後には懐かしい思い出となるはずで、責任者の人は仕事を通じて、クラスメイトや部の仲間はそれへの協力をすることで、全体として、高校最後の文化祭の思い出を作ったといえます。

常盤祭も 3 年目になると、さすが**3 年生といえる段取りの良さ**が見られました。はっきり言って、今年の 3 年生は常盤祭のクラス企画ができるのだろうか、心配したほど、一週間前までは殆ど準備がどのクラスもできていなかったようです。水曜日の LHR でいよいよ火がついた感じで、残り 2 日間で一気に準備を終えたのは、大人から見ても、たいしたものだと思います。2 年間、大会試合のために参加できなかった運動部の人たちが各クラスとも一生懸命やっていたのが、良くわかりました。大会補助役員や入試を終えてから駆けつけた人もいました。各自が楽しめ、満足できたなら良かったといえます。

こうして、また一つずつ高校生活が終っていきます。それは当然寂しさを伴います。最近のように朝晩の冷え込みを感じるとなおさら、何とも言えない寂寥感を覚えます。

でも、これで高校生活が fade-out するわけではありません。高校生活は自然とは終了しません。「**終らせなければならない**」のです。ひとつのことを終らせるとは、新しいことを始めるための必須のことです。前のものを引きずったまま、新しいことは始まりません。みんなにとって、終らせるとは何でしょうか。それは**進路を決めること、そのための準備をすること**の他はありません。常盤祭が終るまではと、思っていた人もこれ以上はいい訳はできなくなりました。

**切り替え**です。何度も事あるたびに言ってきましたが、本当に最後通牒です。今からでは遅い！！と言いたい気もしますが、やらない方がもっと無意味です。「君子は豹変す」と言います。立派な人物は正しいと思ったら、すぐに生き方を変えられる人です。やりましょう。



### 今後の予定

#### 進路ガイダンス 9/11 LHR

センター試験受験者（南体）

就職・専門学校希望者（多目的）

#### 保護者進路説明会 9/13 17:30～（9/11 締切）

ベネッセ・駿台マーク模試 9/14～15

看護医療模試 9/15

就職試験開始 9/16～

指定校推薦・公募推薦2次申込 9/17 締切